

釧路版 デュアルシステム 提言書



2009年度 社団法人 釧路青年会議所

目次

- 提言書発行にあたって
- 第1章 検証 人材育成の要素
- 第2章 可能性 地域にもたらす効果
- 第3章 提言 釧路版デュアルシステム
- むすびに

発行者 社団法人 釧路青年会議所

理事長 本間 弘人

担当副理事長 松田 有律香

社会開発室室長 鈴木 雄一郎

未来の人材育成委員会

委員長 千葉 朋美

副委員長 鶴間 秀典

委員 中村 司

市橋 多佳丞

中島 真一

佐久間 康範

為国 克彦

岸上 涉

発行日 2009年12月10日

提言書発行にあたって

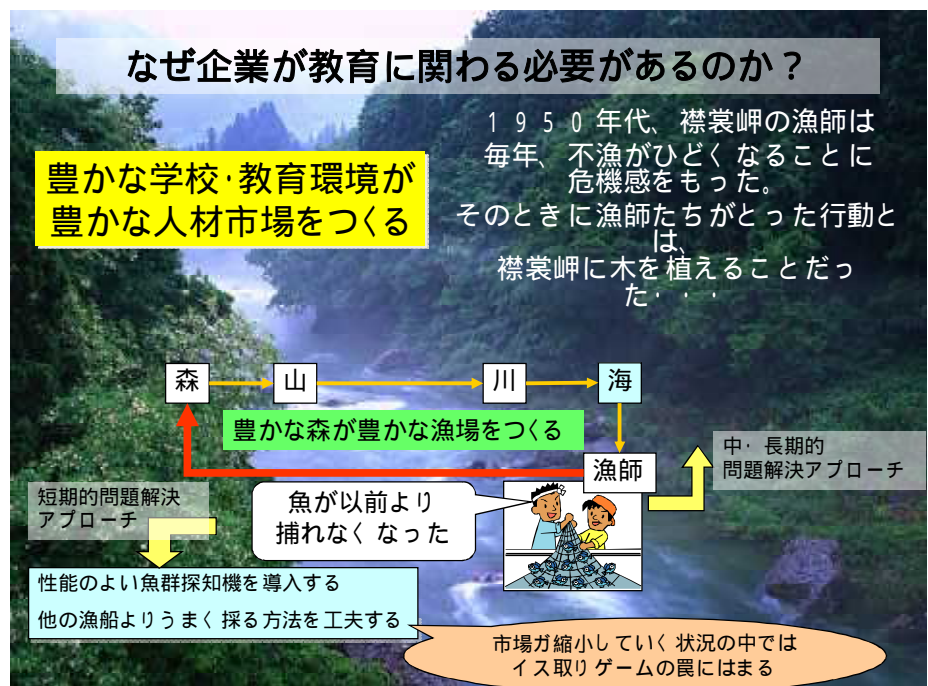
2009年度 社団法人釧路青年会議所
理事長 本間 弘人



社団法人釧路青年会議所は、釧路のまちの発展と明るい豊かな社会の実現のため日々努力する20歳から40歳までの会員で構成される青年経済団体で、本年創立57周年を迎えました。私たちの団体が活動を始めた当初より、釧路は道東経済の中心であり、漁業は漁獲高日本一を誇り、製紙業、石炭産業とその繁栄ぶりは高度成長で駆け上がる日本の速度を上回る勢いでありました。

しかしながら、その中で失ったものも多く、昨今の不況下において、その歪みが顕在化し、家族の結びつきの低下や少年犯罪など数多くの社会問題を生み出しています。将来に夢を持たず、働く意欲のないニートやフリーターが年々増えていく中で、その前の段階でどうやって若者に夢を持たせ、一人前の社会人として巣立たせるのか。そのためにこの釧路地域で誰が何を行うべきかを、調査・研究し、このたび提言としてまとめさせていただきました。新しいものを他から持ってくるわけではありません。地域にある素材をつなぎ合わせ、一つの方向性を持って進めていくことで実現できる、と我々は考えます。ぜひみなさん、若者を地域で育てるため一緒に立ち上がりましょう！

「人を育てる」
それは今を耐え忍び、将来への種を植え、苗を育てること。木を切って植えないければ森は育たぬ。
経済優先の現代社会の中でいつからそれが途絶えたのだろうか。その先にあるものは、



第1章 検証 人材育成の要素

ニート・フリーター・早期離職者など、働く意欲がない若者が増加しています。家庭環境や社会情勢などいろいろな課題が山積していますが、その要因として、若者の職業観・勤労観の欠如があります。若者の職業観・勤労観を醸成するための方法として、我々は「釧路版デュアルシステム」の構築が必要であると考え、提言させて頂きます。

ニート・フリーター・早期離職者の増加

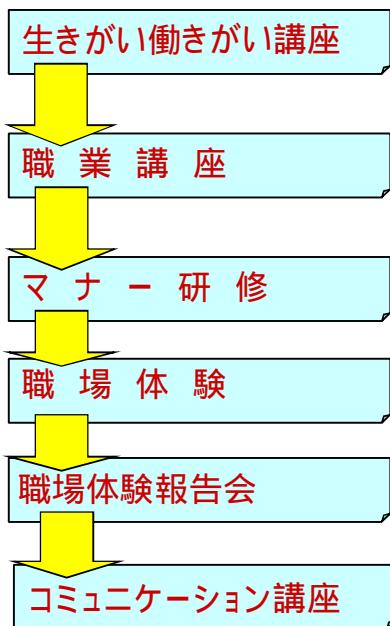
要因は

若者の**職業観・勤労観**の欠如！

醸成するには

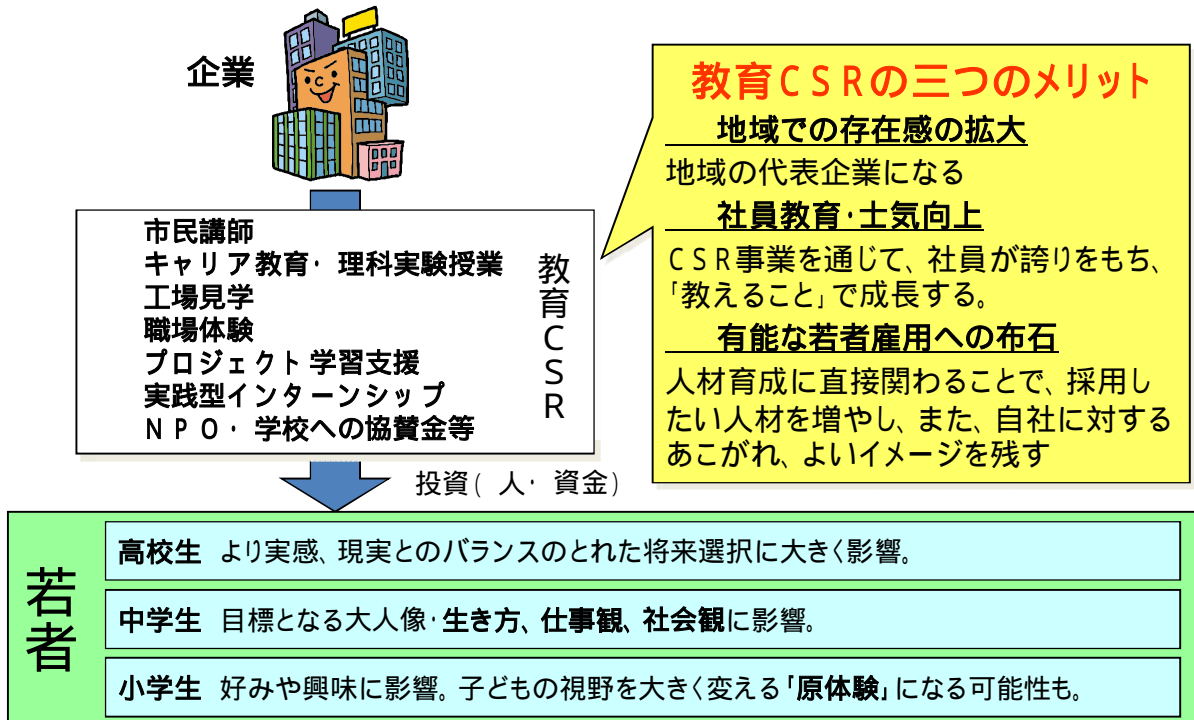
釧路版デュアルシステム構築へ！

体系化することでより効果をたかめた職場体験プログラム (愛知県瀬戸市の例)

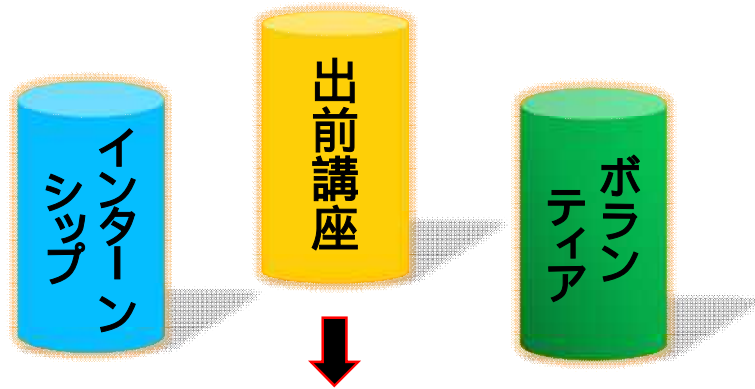


推奨学年	名称	内容
1年生	将来つきたい仕事って何？	ワークシートを用いて、自分の将来なりたい自分を思い描く。
	生きがい・働きがい講座	生きがい・働きがいについて、様々な人生体験をもったインパクトのある市民講師の話をかかせる。生徒は、自分の将来の仕事についてより具体的に考える材料を得る。
2年生	職業講座	様々な仕事をもった市民講師に直接職業について語る講座。生徒は、プロとしての独自の経験や知識を聴くことで、仕事理解を深める。
	マナー研修 (社会人心得講座)	職場体験に臨む生徒に、体験先での学習効果を高めるための基礎的なマナーについて学ぶ。「社会に出る」という動機付けともなる。
	職場体験	単に職場で作業に従事させるだけで止めさせず、 職場の人々からの暖かい声かけを奨励したり 、職場体験内でプロジェクト学習をさせたり、より深い体験となるように、支援を行う。
	職場体験報告会	職場体験で得た体験や感動、気付きをクラス内や学年全体で発表しあい共有する。他の体験を疑似体験することでばらつきを減らしたり、発表したり、まとめたりする力を伸ばす。
3年生	コミュニケーション講座	生徒自らが、ワークショップや面接体験などのコミュニケーションを通して、これまでの経験を振り返り、今できること・将来の夢を考え、表現させることで、コミュニケーション力や自己理解、職業観を深める講座。

企業の教育参加の手段とメリット



未来の人財へ導く3つの柱




同時複合的に組み合わせひとつのシステムとして
起動することが最適である

釧路版デュアルシステム

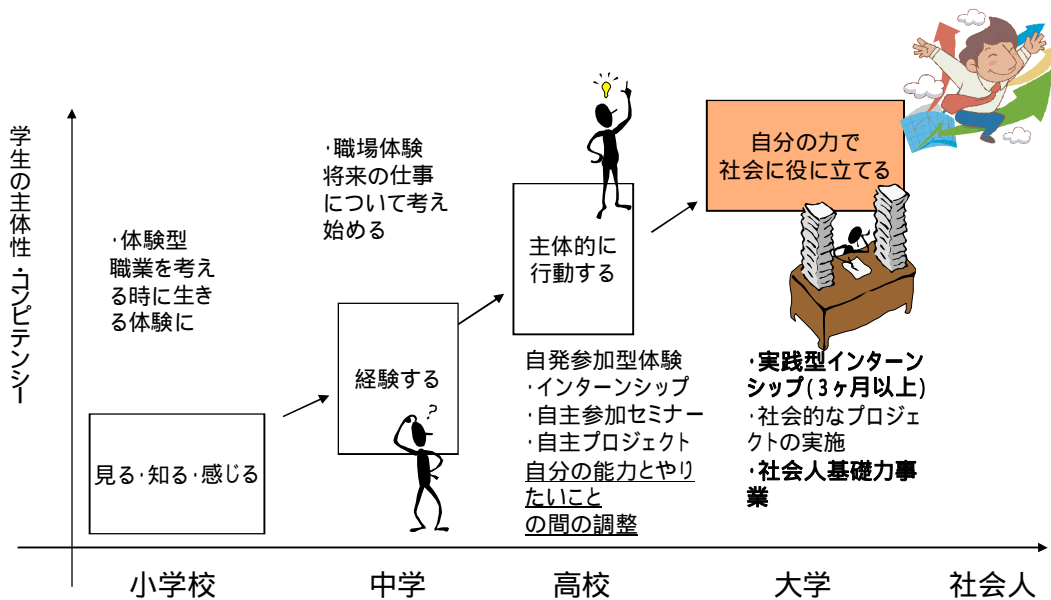
人材育成に欠かせない3つの柱、インターンシップ・出前講座・ボランティアを同時複合的に組み合わせ、若者を段階的に育てていくような、ひとつのシステムとして起動することによって、よりスムーズにより社会に望まれる人財として育成できると考えます。

このシステムのことを「釧路版デュアルシステム」と命名しました。

第2章 可能性 地域にもたらす効果

<p style="text-align: center;">新入社員採用と人材育成の コストを削減できる可能性</p> <p>企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人広告や面接 ・人材育成セミナーや資格取得 <p>釧路版デュアルシステムが機能すると・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標の定まった若者とのマッチング 即戦力に近い人材の確保 早期離職の減少 熟練労働力の備蓄 	<p style="text-align: center;">就職支援にかかる負担軽減と チャンス拡大の可能性</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職担当の先生 → 負担大!! <p>↓</p> <p>地域企業や業務内容を熟知しているわけではない</p> <p>釧路版デュアルシステムが機能すると・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> 出前講座の手配や講師の選定 インターンシップ受け入れ先の確保 若者の就職チャンスの拡大
<p style="text-align: center;">縦割り行政一本化の可能性</p> <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の機関であるハローワーク ・経済産業省が出資しているジョブカフェ ・厚生労働省が業務委託している若年者就労サポートステーション ・高校生の就職活動は、教育局とその高校、大学は独自に <p>かなりの資金が投下されている・・・</p> <p>釧路版デュアルシステムが機能すると・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金の一本化による経費の削減 縦割り行政の壁を打破し、一貫した就労支援体制を組める 学校との連携が強固になり信頼関係を深めることが出来る 	<p style="text-align: center;">若者の夢と仕事のマッチングと 人材流入の可能性</p> <p>若者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての若者が夢や希望と就職を マッチングすることは出来ないが、 就職してから夢を持てたりすることも多い <p>釧路版デュアルシステムが機能すると・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> インターンシップや出前講座、ボランティアのメニュー充実により信頼できる企業から就職先を探すことができる 殆どの若者がマッチングする 他地域からの人材流入の増加 

人材は「林業」的ビジョンをもち、「農業」的に実施する

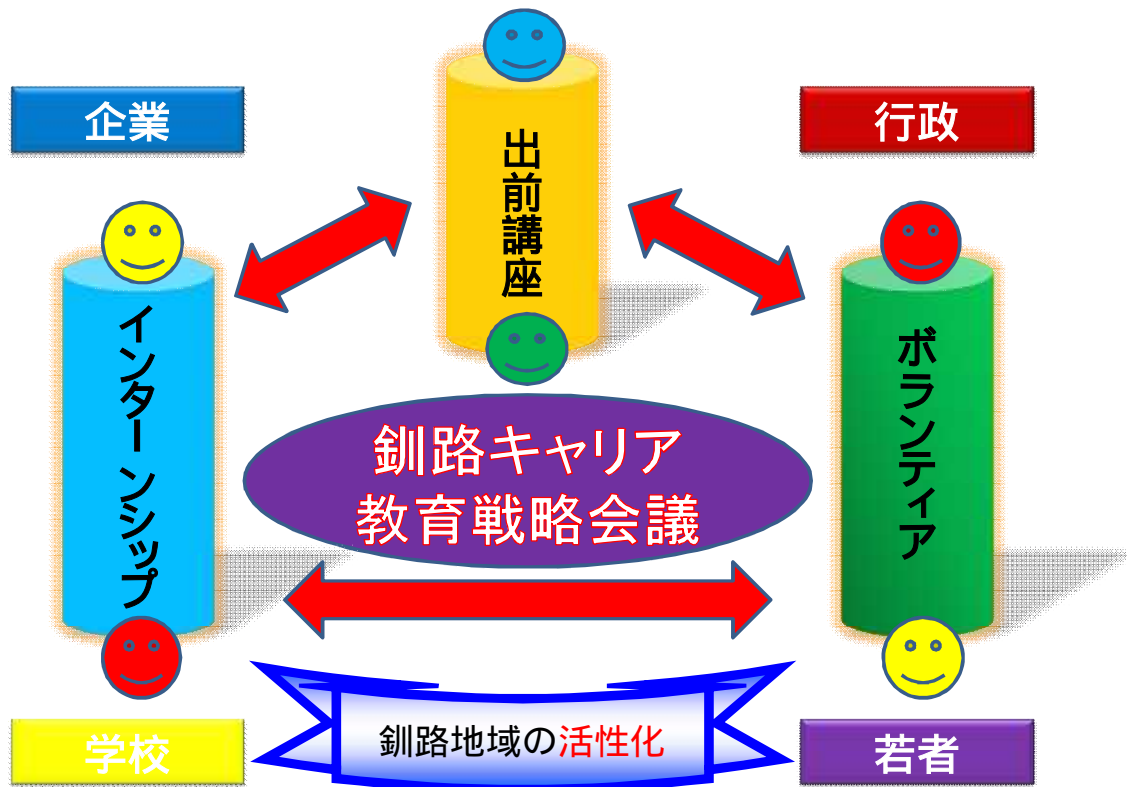


林業的 = 十年単位の未来の需要予測で行動する。

農業的 = 耕し→種まき→水・肥料やり・草取り→収穫と1年のサイクルで育つ

第3章 提言 釧路版デュアルシステム

釧路版デュアルシステムの理想形



むすびに

物に溢れ、何不自由なく生活できた日本。そんな社会に流され、我々の住む釧路でも若者の夢を育てられない環境を作り、人材育成の大切さに目をつぶり、利益優先の「即戦力獲得」という合言葉のもとに地域の将来を考えることをやめていたのではないのでしょうか。

今回の提言書をまとめるにあたり、若者のために企業・学校・行政が率先して連携し、国の新たな緊急雇用対策に盛り込まれた政策に則る形で「釧路キャリア教育戦略会議」を立ち上げ、その戦略会議が主体となって、「釧路版デュアルシステム」を具現化していくことによって、人材育成に最大の効果を生み出すと考えます。この釧路版デュアルシステムにより、若者が地域にとって必要な人財として巣立ち、釧路の将来がより良いものになっていくものと釧路青年会議所では確信し提言書のむすびとさせていただきます。